

---

# 向こうの芝が青く見えるならば

迷鳥

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

向こうの芝が青く見えるならば

### 【コード】

N6343Q

### 【作者名】

迷鳥

### 【あらすじ】

一度は思ったことがある、そんな迷いを書いています。

キーワードは「幸せに迷いましょう」

(前書き)

隣の芝は青く見える。ならば

自然に囲まれて、自給自足の生活。

最初は苦しいこともあったけれど、慣れるとそれは癒しの塊、ストレスとは無縁の生活……

「……いいなあ」

テレビに映る、田舎での生活を始めた夫婦の特集を見て呟いた。

テレビの先は、田舎、森林に囲まれて、きれいな空気

一方私の状況、都会、ビルに囲まれて、排ガスの空気

「……はあ」

私も、あんな生活がしてみたい。

私には、ああいう生活の方があっているんだ。

「なるほど、これが属に言うあの言葉だな」

「？」

声が聞こえた。見るとテレビの横に人が立っていた。

赤やら青やら、目が痛くなるようなカラフルな筆で塗りたくったよ

うな服を来て、逆に白と黒だけの帽子を被っている。

「……ダレ？」

「貴女は知っているだろうか？ 隣の芝は青く見えるという言葉を」

無視された。しかし、その言葉は知っている。

「確か……他人は良さそうに見える……よね？」

「そんな感じだ。その言葉が本当としたら、隣の芝は青く色づいて

いる。ならばさながら、テレビの先は赤にでも彩られているのだろ

う」

「何が言いたいの？」

「どうかあなたは何者だ？ どうやって鍵を内側から閉めた部屋の

中に入ったんだ。」

「どうやって、隣の青い芝は手に入らないのだよ、その苗を手に入

れて植えたところでその芝は緑だ。何故なら隣の芝は、青く見え

るだけの緑の芝なのだからな」

「な……………」

そんな、夢の無い正論を……………」

「……………」だが、赤々とした芝ならば、どうだ？」

「え？」

気付くとその人……………」多分、女の子は私の前にいた。

「今しがたのテレビ、あの夫婦もまた間近の緑よりも遠くの赤を望んだ者達、彼らのようになら、貴女でもなることは出来るのさ」

「あ……………」

……………」そうだ。あの人達だつて最初からあの生活だつたんじゃない。

田舎に移り住んで、努力して、今のあの状況なんだ。

「チャンスは貴女にだつてある……………」やってみたくはないかい？」

「……………」出来るの？」

「もちろんだとも、それを教えにも来たのだからね、にひひひひ、」  
女の子は妙な声で笑った。

私は今の仕事を辞め、赤々と芝を求めて歩き出した。

新たな生活、それは癒しの塊で、ストレスとは無縁で……………」

……………」そうなりたくても、何故かなれなかった。

なぜ……………」？ 私はただ、癒しを求めて都会と別れたのに。

ストレスを無縁にする為に田舎を訪れたのに。

なぜ……こちらの方がストレスを感じているの？

なぜ……なぜなの……？

なぜ私はナイフを持っているの？

ザクッ

「隣の芝は青く見える。さながらテレビの先は赤々とした芝……なるほど、確かに真っ赤だ。隣の芝を求めすぎて迷い行き当たった者が手に入れるのにちょうど良いのかもしれない」  
声が、聞こえる気が……

でも……反応出来ない……  
だって……もう……

求めるだけ無駄なのさ。

人の人生はその人のもので、他人がよく見えるのは、自分とは違うからだ。

他人は他人でまた他人を好み見る。

他人が良いから見るのでは無い、他人が他人だから見るのだよ。

他人故に見てその自分とは違うと感じて他人が良いと思う。

だから、隣の芝は青く見える。

だからそれは見えるだけで。

青い芝も、ましてや赤い芝も無いのだからね。にひひひひ

(後書き)

自分と他人は違うもの。

なりたくてもなれないもの。つまり自分は自分で居て続けて他人を見る。

そんな気持ちを書いてみたものです。

感想及び評価、お待ちしております。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6343q/>

---

向こうの芝が青く見えるならば

2011年5月29日08時56分発行